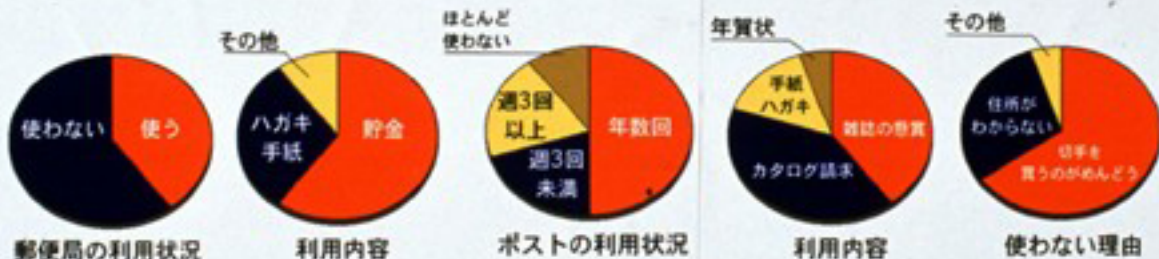




# 原始メディアの日常思考

『マルチメディア』この言葉は、ここ数年で急速に社会に浸透していきました。インターネットによるEメール、ファックス、PHS、携帯電話などますます増加する通信技術。携帯電話とノート型パソコンをつないで情報をどこからでも送ることができたり、電話でビデオの予約録画ができたりと世の中はどんどん進んでいます。これからまだまだ発展すると思われる新しい通信技術にハガキや手紙を送る機会が減っていくと思います。人の書く字は、その時の気分やその人の心が写しだされます。そんな心も機械を通すことによって記号の組合わせになってしまいます。人の心を遠くに飛ばすハガキや手紙をもっとみんなが楽しく利用してくれればいいと思って考えました。

○はじめに郵便局とポストの利用状態を高校生100人にアンケートしました。



アンケートの結果から今の高校生はハガキや手紙を書くことが少なくなっていると思いました。将来の事を考えて若い人(中高校生)にたくさん利用してもらえるようになれば、手書きのハガキや手紙が未来にも残っているだろうと考えました。

そしてハガキや手紙の人気を得るために今の中高校生がよく利用する物、人気のある物をいくつかあげてみました。携帯電話、ポケットベル、プリント倶楽部など、たまごっちなどの携帯ペット。並べてみるとどれも手軽な物ばかりです。携帯電話やPHSは公衆電話を探さなくてもどんな場所からでも話せます。たまごっちなどのおもちゃのペットは餌も買わなくてもいいしウンチも捨たなくていいのです。自分の体を使って散歩に連れ出さなくてもいいのです。このように最近の若い者は自分の体を使わない物を好む傾向があると思いました。これらの考えを整理して今の郵便よりもっと送りやすくなる方とみんなの興味をひくポストカードを考えました。

# 原始メディア回帰思想

アンケートの結果や今の中高生が好むものなどを考えて今よりもみんなが郵便を送りやすくなるようなポストを考えました。

文字と絵で使い方を説明してくれる液晶ディスプレイを付けます。これで機械が苦手な人やお年寄りも気軽に利用できます。

切手の代金はテレホンカードのようなシステムにしてハガキ、封筒の大きさによって自動的に計算してくれます。これによって切手を貼ったり何度も買いに行く事もなくなります。このカードはコンビニやポストの近くの自動販売機で買えるようにします。

ハガキや封筒の大きさを自動的に量り必要な金額を調べてくれます。今までの切手が貼ってある場合も送ることができます。

その場で現金を投入して送ることもできます。カードの残り度数が少ないときは、ディスプレイに表示された金額をいれます。

電話番号を入力すれば住所を割り出して印刷してくれます。しかし受取人や差出人の名前は自分の字でしっかり書きましょう。

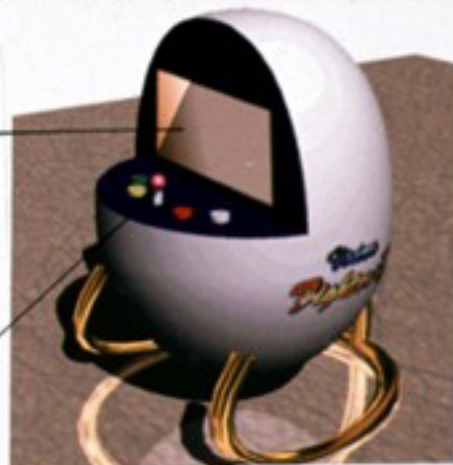
このポストには考えたすべての機能を搭載しましたが、場所やコストの問題で普及させるのに難しい面もあります。利用者の少ない所では機能を減らし利用者の多い所には多機能なものを設置できるようにします。一つでも便利になればもっとポストを利用する人が増えると思います。

中高校生の人気を得るために僕たちの考えたポストカードは今人気のプリントシール機のおようです。自分たちの写真をポストカードにするのです。従来のものは写真をと리카メラ屋さんで現像しそれから印刷屋さんに行くのでとても手間がかかり手軽とはいえません。この機械ならデジタル処理でその場で写真をとリプリントしてくれるのでとても手軽に写真入りのポストカードができます。

画面には自分たちの姿と写真のフレームが映し出されます。気に入ったところで決定してください。

画面に映し出されているものと同じものがはがきにプリントされます。

ここで画面をコントロールします。フレームを選んで簡単なメッセージ言葉を写真にいれられます。決定ボタンを押して決めます。



## ポストとポストカード制作マシンの設置場所について

ポストカード制作マシンはデパートやスーパーのゲームコーナーに設置します。こういう所は財布のゆるんだ人がたくさんいるので勢いで作っていきそうだからです。観光地などに設置すればおみやげにいいかもしれません。(詳しくは④を見てね) ポストの方は従来のものと違い機械になっています。このため雨や風ほりの多いところにはおけません。専用のBOXのなかに入れるとかどこにでもあるコンビニエンスストアに設置してもらおうという方法も考えました。コンビニエンスストアに設置すれば買い物ついでに利用できるしポストを利用した後になにか買っていかもかもしれません。ポストにとっても店にとっても悪いことはないと思います。

切手付きで二枚500円くらいにできればいいと思います。

名前やメッセージを書けばすぐに送れるポストカードを作ります。

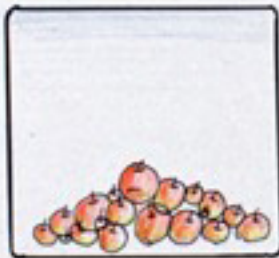
3分くらいでオリジナルポストカードができています。機械のなかで住所や名前を印刷してくれるといいんじゃないかと思うかもしれませんが、それではこの機械を考え出したコンセプトに反してしまいます。

あえてこのポストカードの下半分を空白にする事によってその差出人はなにかを書くこととなります。くだらない落書きでもいいからなにか本人の手書きのものが相手にとどけばこの機械はコンセプトに反しないと考えました。デジタル技術の便利さと人の手による仕事の中間をとったものが、理想だなと思いました。

さらに、このポストカード普及のアイデアを考えてみました。

## ①地域限定の写真フレームを作る。

これによって日本各地で知り合った人たちとカードを交換することによっていろいろな種類のフレームをもつポストカードを集めるようになるのです。これはコレクター心をくすぐる作戦です。



## ②期間限定フレームを作る。

1年に1回しかない行事を利用します。例えばクリスマスに贈るカードなどです。毎年デザインを変えていきます。それも楽しみになります。いつもよりも色を豪華にしたり特殊効果をつかったりします。



### まとめ

この考えではデジタル技術の進歩によって人間のもつ心の暖かさみたいなもののコミュニケーションが、なくなってしまうのではないのかという考えからおこりました。パソコンなどが普及して、みんな家にとじこもり遊び相手も、学校の先生も機械という時代もそう遠い未来の話ではなくなってきたと感じました。そうした機械の便利さも利用しつつ昔ながらの人間どうしのコミュニケーションも忘れないという未来がくるといいなとおもいました。